

事項	放牧育成した黒毛和種子牛は経費が低コストとなり、舎飼い育成した子牛と肥育成績も変わらない		
ねらい	<p>本県では、広大な公共牧場を利用して肉用牛の放牧が実施されてきたが、黒毛和種の飼養頭数が増加する一方で放牧子牛は子牛市場上場時の体重が一般的に軽いため、放牧頭数の減少要因となっている。そこで、放牧育成を行っても肥育終了時体重や枝肉成績が舎飼い育成と差が無いことを明らかにしたので普及に移す。</p>		
普及する内容	<p>1 黒毛和種子牛の放牧方法 (1) 放牧開始月令 2か月令～4か月令 (2) 放牧時期 放牧開始は6月頃 (3) 放牧日数 100日間程度 (4) その他 放牧場では親子放牧とする。</p> <p>2 放牧効果 (1) 放牧育成子牛は、舎飼い育成子牛よりも肥育開始時の体重は軽い。 (2) 放牧育成子牛は、肥育開始後の代償的な発育により肥育終了時体重は舎飼い育成と同等。 (3) と殺後の枝肉成績も舎飼い育成と同等。</p> <p>3 経営経済効果 (1) 放牧育成子牛は舎飼い育成子牛より出荷体重が少なくなり、市場価格が低くなるが、生産コストの低減により繁殖農家では1頭あたり4万円程度の収益増が期待できる。 (2) 肥育農家では、子牛購入価格の低下により1頭あたり4万円程度の収益増が期待できる。</p>		
期待される効果	<p>1 放牧育成により 繁殖農家、肥育農家双方の収益性が向上する。 2 公共牧場の利用拡大により、飼料自給率が向上する。</p>		
普及上の注意事項	子牛は適正な放牧管理をするように努める。		
担当部署 (担当者名)	青森県農林総合研究センター畜産試験場 繁殖技術肉牛部 (中島聡、船水正蔵)	対象地域	県下全域
発表文献等	平成20年度東北農業研究成績・計画概要集 平成20年度青森県家畜保健衛生所業績発表会		

【根拠となった主要な試験結果】

表 1 個体毎の放牧状況及び放牧期間

区 分	生年月日	放牧開始日	退牧日	放牧期間
同性双子	2005年2月 7日	6月10日	10月11日	123日間
	2005年2月 7日	放牧せず		
1卵性 双子	2005年3月 2日	放牧せず		
	2005年3月12日	6月28日	10月10日	104日間
全兄弟	2005年4月 4日	放牧せず		
	2005年4月10日	6月7日	9月12日	86日間

表 2 発育成績（平均値±標準偏差 kg）（平成18, 19年 青森農林総研畜試）

区 分	体 重		1日当 り増体量
	開始時	終了時	
放牧育成子牛	274±21.1	763±53.8	0.88±0.18
舎飼い育成子牛	310±80.5	750±188.9	0.79±0.28

表 3 枝肉格付成績（平成19年 青森農林総研畜試）

区 分	脂肪交雑 (BMS No.)	枝肉重量 (kg)	ロース芯面積 (c m ²)	バラの厚さ (c m)	上物率% 格付け4以上
放牧育成	5.3	477.5	51.0	7.4	66.6(2/3)
舎飼い育成	5.7	467.5	52.0	7.2	66.6(2/3)

表 4 青森県家畜市場での放牧育成子牛と舎飼い育成子牛の市場成績

区 分	放 牧 牛			舎 飼 い 牛		
	18年度	19年度	平均 又は計	18年度	19年度	平均 又は計
頭 数(頭)	112	119	231	3,547	3,528	7,075
平均日令(日)	305	307	306	301	299	300
平均体重(kg)	292	296	294	303	306	304
平均価格(円)	531,375	520,059	525,546	575,394	579,340	577,362

表 5 生産コストと収益(円)

区 分		放牧育成(A)	舎飼い育成(B)	A-B
繁殖農家	子牛生産費 ①	468,222	551,043	-82,821
	子牛売却価格(平成18年 度市場調査価格) ②	531,375	575,394	-44,019
	子牛売却利益 ②-①	63,153	24,351	38,802
肥育農家	子牛購入価格 ③	531,375	575,394	-44,019
	肥育飼料費 ④	308,330		0
	肥育出荷価格 ⑤	924,177		0
	利益 ⑤-④-③	84,472	40,453	44,019

(注) 濃厚飼料と粗飼料は青森畜試購入単価、他は第53次青森農林水産統計年報を参考。